



# フジ虎ノ門整形外科病院 地域に寄り添って

幅広い分野で  
地域に貢献

今回取材したフジ虎ノ門整形外科病院は、整形外科を中心とした外科系・リハビリテーションの高度専門病院だ。また虎ノ門グループとしても障がい者医療やスポーツクラブ、保育園など幅広い分野において地域に貢献している。

## すべての人々のために

なぜ御殿場で開業したのか、フジ虎ノ門グループの土田博和会長に話を聞いた。土田さんは石川県出身で、幼少期に静岡県へ引っ越し、静岡で育ったという。富士山が大好きで、大自然の下で仕事をしたいという思いから御殿場で開業したそうだ。フジ虎ノ門整形外科病院に併設するフジ虎ノ門こどもセンターでは、障がいのある子供や難病を抱える子供の治療や、学童クラブなどすべての子供たちが生き生きと暮らせるよう取り組みを行っている。土田さんは「近年、発達障がいをもつ子供が増える一方で、障がい者が生きにくい世の中になってきていると感じます。障がい者医療は小さな分野ですが、たとえ赤字でもやらなくてはいけない大切な分野です」と語る。



▲明るい雰囲気にあふれている



▲話をする土田博和会長

## 様々な人と出会う

働く上での信念として「昔、土木作業員として働いていたときにどんな人でも差別せず一人の人間として見ることの大切さを学びました。苦しい環境で生活したことがどんな状況でも人を助ける原動力になっていると思います」と語った。また、土田さんは映画の監督や政治家としてワイドに活動している。様々な活動をする中で、色々な人と出会うことができ、そのときに出会った人に助けられたことが何度もあった。

# 土井製菓株式会社 顧客に喜んでもらうために

皆さんは、全国菓子大博覧会内閣総理大臣賞を受賞した「富士の白雪カスタード」や名誉総裁賞を受賞した「土井の田舎草もち」を一度は見たことがあるだろう。私たちはこれらを製造する土井製菓株式会社の代表取締役社長、土井隆司さんに会社設立について話を聞いた。土井さんは「この会社は、羊かんの下請け会社から始まりました。私の幼少期には、母が私を背負いながら羊かんを煮たり、父が配達



▲土井隆司社長

や営業をしていたようです。その後父が会社を設立し、苦労の末にヒット商品を作りだし、会社を拡大することができました」と話した。土井製菓株式会社は現在、大手交通・鉄道会社などが経営しているホテルやテーマパークの売店、さらにサイブスエリアなどに菓子を納入している。

今回、取材させていただいたフジ虎ノ門整形外科病院では、過去の経験から、どんな人とも対等に接することの大切さを信念として働いていました。土井製菓株式会社では、長い間の苦勞を乗り越えて、ヒット商品を開發しています。地域に存在する素晴らしい企業は過去の経験を今に生

## 東部へ自慢できるお菓子を



## 経営上の苦難

実は、土井製菓株式会社は創業当初に経営難にさいなまれたという。「私が子供の頃は父母共に働いており、借金も抱えていました。父は一日中外へ営業・配達へ行き、母は家事をしつつも、私と一緒に菓子を入る箱を折っていたことをよく覚えていますが」と懐かしそうに語ってくれた。しかし、現在ではまた別の点で苦勞しているという。「ここ最近社会全体において食品衛生に対する意識が大変厳しくなり、以前よりも社会が敏感に反応するよう

## 編集後記

今回、取材させていただいたフジ虎ノ門整形外科病院では、過去の経験から、どんな人とも対等に接することの大切さを信念として働いていました。土井製菓株式会社では、長い間の苦勞を乗り越えて、ヒット商品を開發しています。地域に存在する素晴らしい企業は過去の経験を今に生



▲白衣を試着した新聞部員

## いざ出陣

最後に、私たち高校生へのメッセージを聞くと、人との出会いを大切にしたいという答えが返ってきた。「何事も一生懸命やっていたら、いつか必ずあなたが応援してくれる人が現れます。幼いころからなりたいと思っていた、そういう仕事に就けるかはわかりませんが、肩ひじ張らずに少し物事を気楽に考えて毎日目の前のことを頑張る。そうすれば誰でもきっと報われると思います」と話した。部活動や勉強などに熱心に取り組むことが大切であることを改めて確認できた。

# ものをづくりに誇りを

## 伊豆技研工業株式会社 渡邊嘉彦専務



伊豆技研株式会社の外観

伊豆技研工業株式会社は電子基盤の実装を行っている。主にロボットやシリンダーを制御する機械の基盤を作っている。産業用の機器の基盤を中心にしており、その多くは製品を作るための制御用部品で、1日に多くて4000個ほどの基盤を制作している。



取材を受ける渡邊専務

～会社プロフィール～  
所在地 三島市  
昭和51年設立  
産業用機器ユニットや医療機器など幅広く対応。スピーディに動ける強みを活かして、様々な仕事を請け負っている。

### デジタル化を進める

私たちが伊豆技研は、幅広い種類の基盤を高品質で提供できるようにIoTを取り入れています。また、IoTをどのようにに仕事と結びつけるかも考えています。例えば、社内の衛生環境を改善するための5

S活動  
(整理・清  
整頓・清  
掃・清潔・しつけ)  
の一環として、社

伊豆技研は、地域に密着した活動を行う一方で、東南アジア諸国と連携した取り組みも行っており、まさに「グローバル」に活動する企業だ。また、グルッペもパンで日本一を目指し、全国をフィールドとしつつ

### 地域に根差した会社作りを

どちらも企業も、大きな活動を行う傍ら、

も地元の物を使った商品を開発しており、地域に根差して活動しているといえる。地域を大切にしており、地域を土台にして全国や世界へと羽ばたいている。

内のホコリの数を可視化するパーティクルセンサーを設置しています。また、IT人材の育成にも努めています。例えば、三島市と協働して子ども向けの電気工作会を実施したり、静岡県IoT活用研究会の一員として、中小企業向けにIoT化推進のサポートなどを行っています。

### 自分自身で考える

自分の仕事をどう遂行するかを社員一人ひとりが考えることが大事だと思っています。組織の中で役割はあっても、会社を良くしていくのは一人ひとりの取り組みです。だからこそ、自分自身で考え、振り返り、各個人が組織の改善に繋げることが大切です。



▲商品を説明する石渡社長(左)・石渡常務(右)

～会社プロフィール～  
所在地 函南町 昭和26年設立  
パンやワッフル、どら焼きなど、様々な商品ラインアップを展開している。また、自衛隊への非常食の提供や大手コーヒーショップへの販売など、全国的にも活躍している。

# 「観る」ことを大切に

株式会社グルッペ・石渡食品有限会社 石渡浩二社長 石渡麗子常務



▲みしまフルーティ キャロット

株式会社グルッペ・石渡食品有限会社の「みしまコロツケパン」は第3回全国ご当地パン祭りにて、「みしまフルーティキャロット」は第4回全国ご当地パン祭りにて、それぞれ第1位に輝いた。これらの商品は、箱根西麓三島野菜の三島馬鈴薯や三島人参を使用している。石渡食品は、地域に根付いた商品や工夫が詰まった商品の開発している。また、周辺の学校への給食の提供なども行っている。

### 「おいしいを前提に」

弊社のパンには、様々なこだわりがあります。例えば、「みしまコロツケパン」のコロツケは、パン粉用の食パンも自社で製造しています。また、パンはしつ

### 「考え方を一歩前進」

また、私たちは「観る」ことを大切にしています。周り

### 編集後記

取材させていただいた企業の方々をはじめ、三島信用金庫の担当者の方の協力を得て、紙面制作ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。未熟な点も多いですが、企業の魅力が伝われば幸いです。

【二面担当】

県立葦山高校  
写真報道探究部

# 業界のトップランナー

唯一無二の技術  
大静高圧は、専門技術者が多く用いる検査に、検査器具が多用され、検査に必要の機器を揃えておく必要がある。検査の精度を上げるには、検査器具のメンテナンスが不可欠。

自製の高圧検査器具は、他社にはない独自の技術が光る。検査に必要の機器を揃えておく必要がある。検査の精度を上げるには、検査器具のメンテナンスが不可欠。



大静フロントについて語る白砂さん

# 大静高圧 株式会社

長泉町にある大静高圧株式は、2016年に創業した。事業は、ガス容器の検査、修理、販売など。現在は、高圧ガス検査器の製造、販売と、自社で行っている。また、容器をくずして、高圧ガスを取り出す。回収したガスは、再利用している。また、容器をくずして、高圧ガスを取り出す。回収したガスは、再利用している。

LPガス検査の先駆者  
大静高圧株式は、高圧ガス検査器の製造、販売と、自社で行っている。また、容器をくずして、高圧ガスを取り出す。回収したガスは、再利用している。また、容器をくずして、高圧ガスを取り出す。回収したガスは、再利用している。

地域と未来のために  
大静高圧株式会社は、LPガスを安全に供給するために、安全な環境を整えている。また、検査に必要の機器を揃えておく必要がある。検査の精度を上げるには、検査器具のメンテナンスが不可欠。



工場内を見学する部員

大静高圧は、他社にはない独自の技術が光る。検査に必要の機器を揃えておく必要がある。検査の精度を上げるには、検査器具のメンテナンスが不可欠。



人参ジュースについて語る國末さん

お客様の声をヒントに  
株式会社一粒万倍は、平成11年、自身の体験から「健康の創造」を経営理念に掲げて設立した。人参を健康に活用するための取り組みを行っている。また、人参を健康に活用するための取り組みを行っている。

# 人参で作る健康 株式会社一粒万倍



緑肥で育てた人参

地域住民へ恩返し  
地域への貢献は、株主への還元と同じように重要。地域への貢献は、株主への還元と同じように重要。地域への貢献は、株主への還元と同じように重要。



ピエキヤロップ(左)ピエキヤロップゴールド(右)

編集後記  
今回取材させていただいた大静高圧と一粒万倍の両企業は、地域・社会への貢献を重視し、企業として、元にも良質な製品を提供している。この新聞を通じて、県外の企業にも良質な製品を提供している。この新聞を通じて、県外の企業にも良質な製品を提供している。

健康維持に向けて  
大静高圧は、健康維持のために、様々な取り組みを行っている。健康維持のために、様々な取り組みを行っている。健康維持のために、様々な取り組みを行っている。

# ただ最高のホテルとして 味と湯の宿 ニューとみよし

現在日本の産業にダメージを与える新型コロナ。このような状況の中、ホテル「ニューとみよし」は6月から12月のGOTOの期間にほぼ毎日全部屋満室という驚くべき結果を残した。ホテルとしてコロナ禍をどう受け止め、どう経営し、そして会社としてどうあるとしたのか、代表取締役社長の富岡篤美さんに話を聞いた。

富岡さんの実家では父と兄が「富義丸」という船を操業しており、その漁船から名を取った「とみよし」という宿を網代で営んでいた。次男であった富岡さんは、分家し伊豆多賀の地で宿泊業を始め、生家の宿名に「ニューとみよし」が誕生した。宿のある伊豆多賀は、自然豊かな場所、熱海駅周辺の街並みとはまた

一味違う、ゆったりとした雰囲気味わえる。カッブルや家族連れなどの個人客が多いのが特徴で、少人数でゆったりと食事や温泉を味わえることを「ニューとみよし」の売りとしている。富岡さんはコロナ禍においてのこういった客層について「高齢の方や乳幼児等の利用は少なく、健康な若い人の利用が多い。私みたいに不健康な人の割合は少ない。(笑)」と語った。

## 多賀をより魅力的に

このように伊豆多賀の魅力と顧客のニーズを合わせてサービスを提供している「ニューとみよし」だが、地域社会とも強いつながりがあり、熱海高校と「ニューとみよし」のコラボ企画である高



楽しそうに語る 富岡篤美さん

校生ホテルだけではなく長浜海岸の清掃にも携わっていたり、管理や開発にも関わっている。富岡さんは地域との交流について「地域の支えが無ければ宿泊業は難しい。長浜海岸等の観光の拠点をきちんと整備し魅力ある街づくり地域と一緒にやって取り組まなければいけない。」と語った。

## 経営者として

富岡さんは仕事で意識していることについて「従業員にも言っている自分も心掛けていことだが正直にやることを心掛けています。普通できないことをできないと言わないことは勇気がいる。お客さんにも始めにできることとできないことをはっきりと心掛けることを心掛けている。」と語った。最初に中途半端にできないことをできると言ってしまうと防がず、できぶらない、無理をしないということ宿の基本理念として置いている。また、富岡さんは営業の辛い時期をどう乗り越えてきたのかについて「逆になんか悪いときは悪いなりに、良いときは良いなりにやることがあるとよくわかった。」と語った。



露天風呂「海」景色は絶景である。

うやって超えてきたかについて「誰よりも早くから働き、誰よりも遅くまで働いた。」と語り、今年のコロナについて「ジェットコースターみたいだ。稼働率が100%に近い月、0%に近い月、自分も40年商売をやっているが初めて。逆になんか悪いときは悪いなりに、良いときは良いなりにやることがあるとよくわかった。」と語った。

# 伊豆新聞本社 新聞を作る企業として



インタビューに答える 佐藤裕一さん

伊豆地域を取材対象エリアとし、新聞を発行している伊豆新聞本社。今回我々はコロナが猛威を振るっているこの2020年に伊豆新聞がどのような取り組みをしているのか知るために、本社に向き、記者の佐藤裕一さんと総務局長の小原央多さんの話を伺ってきた。

## 記者として

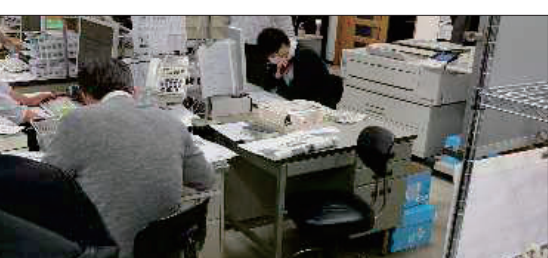
取材担当の佐藤さんは新聞記者として新聞を書く上で心掛けていることは「自分の思いを相手に伝えるのではなく、相手の思いを多くの人に伝える。相手が言いたいことや必要なことを客観的に受け止め間違えないよう記事にする。」と語り「新聞を作るうえで正しいことを正確に分かりやすく伝えなきゃいけない。だからちゃんと嘘じゃないのか確かめ、正しいことを伝えなきゃいけない。」

と話した。新聞社として新聞作成の基礎であり重要な部分を踏まえながら伊豆新聞本社では日々伊豆新聞が作成されている。また、誤報等のミスや失敗について「たまに新聞に小さく訂正記事がついていると思うが、こちらが正しいと思いが、実際は違い、チェックをすり抜けてしまうという事がある。それらはあつてはいけないことであり、恥ずかしいけれど次の日の新聞で訂正し、正しい情報を載せるよう努めている。」と語った。また、取材や写真について「基本一人でやる。自分でカ

メラ係とメモ係を全部一人でやる。」と話し「新聞の写真を撮る際はニュースの内容が伝わるようなものを撮るよう心がけている。」と語った。佐藤さんは一人の記者として今中心に取り組んでいることについて「それぞれ持ち場があるが、自分は福祉や観光を中心に取り組んでいる。」と語り、小原さんは会社全体として取り組んでいることについて「コロナ禍で町の元気がなくなっているのを、町を盛り上げるように頑張っているお店を軒一軒取り上げるなどして、元気がない街を新聞

## 地域と共に

佐藤さんは今後頑張りたいことについて「地元にある身近なお店を紹介するという読者から好評な企画があり、コロナ問題だけではなく切り口を変え、飲食店や地



伊豆新聞本社の編集部の様子

元企業や団体など、より幅を広げ、読者や取材された方がより元気になるよう頑張りたい。」と語った。今後も伊豆新聞本社に注目していきたい。今回私たちは三島信用金庫さんの協力の下、「伊豆新聞本社」とホテル「ニューとみよし」の二社にインタビューを行いました。コロナ禍ということもあり、混乱した事もありましたが初めてこういった企業の取材に行った新入社員も多かったため、貴重な体験となりました。伊豆新聞本社の取材では新聞社としての垣根を超えた地元に対する強い愛を感じました。「ニューとみよし」の取材では、お客様へのサービスに対する情熱と従業員一人一人の事を重要視

## 編集後記

「ニューとみよし」は来年から新館の建設を含む大きな増築工事が始まる。それに合わせて富岡さんは事業承継に取り組んでいる。富岡さんは事業承継について「次の立派な経営者を育てるのが一番の仕事だ。僕がもしちゃんと育成できればここをもっと立派な宿にしてくれるはず。人間何が大事かって次に自分の後をちゃんとバトンタッチをする人を育てるのが一番大事だと思う。」と語った。

## 今後について

「ニューとみよし」は来年から新館の建設を含む大きな増築工事が始まる。それに合わせて富岡さんは事業承継に取り組んでいる。富岡さんは事業承継について「次の立派な経営者を育てるのが一番の仕事だ。僕がもしちゃんと育成できればここをもっと立派な宿にしてくれるはず。人間何が大事かって次に自分の後をちゃんとバトンタッチをする人を育てるのが一番大事だと思う。」と語った。



(熱海高校報道部)